

SSKU

夏

2019年度

お元気ですか?
イリアンソ
です。

PAGE 02

理事長の散歩道

PAGE 03

特集「実習生の受け入れ」

PAGE 07

活動報告

PAGE 08

職員一言「ルー

「仕事で大事にしていること」

PAGE 09

がんばれイリアンソ



理事長の散歩道⑱



社会福祉法人 イリアンソス

理事長 磯部 光孝

間に合うかな?花火

暑い夏が待ち遠しいですね。今年も8月3日の土曜日に、学芸大学附属特別支援学校(以下、学大附属)で開催される「夕涼み会」で、わたしが打ち上げ花火をする予定です。

打ち上げ花火といっても、市販で打ち上げられる規模のもので、鉄製の筒を使って直径7.5cm(2.5号玉)ある割玉ですが花火が開く高さが80Mくらいあります。毎回、消防署に許可申請をして、安全が確保できる学大附属のグラウンドを使用させてもらっています。

夕涼み会を通して

実は、学大附属がある東久留米駅の北口の周辺地域は、30数年前に精神障害者の作業所の立ち上げに地元の方々の反対にあい、結局、断念せざるを得ない歴史がありました。それまで、障害に理解のある地域と思っていました。しかし、いったん反対運動が起こってしまうと何度説明しても受け入れてもらえず大きな壁を感じました。この教訓から、普段からの障害福祉

としてのつながりを強くしていかなければと学大附属の先生たちとも話し合っ、「夕涼み会」を開催しました。

市内の障害者団体が集まって模擬店を行い、障害のある人や家族、地域の人たちと交流する祭りです。その後、20数年続くこのお祭りと同時に、市民の方々に障害に理解が進んだこともあり、今では、精神障害の作業所やグループホーム、自立訓練事業所などが展開し、街の賑わいの一端を担うようになってきています。

花火にこだわる!

実は、わたしが花火を打ち上げるきっかけは、30数年前にボランティアとして障害児の乳幼児通園施設の夏のキャンプでした。当時の責任者の方から、子どもたちとキャンプファイヤーをして楽しむときに、子どもたちが驚くような楽しい企画を考えてほしいと相談されました。当時、わたしは若かったのか、軽く承諾してしまいました。子どもの心を揺さぶる楽しいものを求めて、玩具の間屋街がある浅草橋を歩きました。でっかい風船や様々なシャボン玉、五月人形などさすが問屋街と感心してました。そんな中で、花火の看板がある店を見つけ中に

入ってみました。ちょうど店主がいたので、子どもたちが驚くような花火がないかなと聞きました。すると、「あるよー」といって、鉄製の筒と花火の割玉を持ってきたのです。「こんな花火上げられるんですか?」と聞くと保安基準の説明を受けられだれでもできることがわかりました。さっそく説明を受け購入しました。わたし自身も興奮しましたが、最初に打ち上げた時は、子どもたちも先生たちもとっても驚き楽しんでいただきました。

それから、30数年夏になると花火を打ち上げています。もう、やめようかなと思ったことは何度もあります。周りに高層マンションが建ち、花火が見られなくなってきました。でもそのマンションの住人から、見下ろす花火がとってもきれいでお年寄りが楽しみにしていると聞かされました。そんな話を力に変えて、今年も頑張っ「打ち上げよう」と思っています。



特集 実習生の受け入れ

法人では、大学生の実践研修の受け入れを積極的に
行っています。今年度から、
なかまの家と活動センター
かなえでも実習生の受け入
れを始めました。

今回の特集では、学生の
皆さんに実習中に感じたこ
とや「こうしたらいいの
な」など日々勉強している
目線から、下記の項目に分
けて、感想を書いていただ
きました。

学生ならではの気づきが
多く、受け入れ施設として
も新たな発見や共有があり
ます。

- ① 自己紹介
- ② 対人援助職を志す動機
- ③ 感想
- ④ 支援で感じたこと

☆のぞみの家☆

① 日本社会事業大学 社会
福祉学部4年の溝口夢子と
申します。介護福祉士コー
ス課程の一環として、のぞ
みの家さんで6日間実習さ
せて頂きました。

② 重度の知的障害を持つ家
族と、その家族に対して最
も積極的に支援を行ってい
た母の存在が大きいと感じ



ます。二人が現代社会で生
活するにあたって、理不尽
や苦労も多かった様子を見
てきたことから、社会の中
で生きることに不自由を感
じている人々をサポートす
る、そんな職業に就きたい
と考えるようになりました。
③ チャレンジドリームズ班
に参加させて頂き、利用者
の方々それぞれの目標に
向けて活動することを支援
する大切さを改めて感じま

した。

真剣に取り組む姿も、息
抜きの時間に生まれる笑顔
も、利用者一人一人が少な
からず充実した生活を送れ
ている証拠なのかもしれな
いと、私は思います。

④ 班活動全体に当てはまる
ことですが、職員はあくま
で利用者の自主性・意思を
尊重する姿勢が支援に反映
されている点に感銘を受け
ました。助言や手助けはし
ても必要以上に介入せず、
利用者が主体となつて計
画・実践を行っている様子





は良い印象を受けました。
また、ケーキの販売やバザーなど、利用者の活動が地域住民との接点になっており、地域共生の観点から見ても良い取り組みだと考えます。
このような取り組みを継続することで、地域とのつながりがより強く、より長く保つことができれば素敵だと思います。

❁のぞみの家❁

①はじめまして、わたくし日本社会事業大学社会福祉学部福祉援助学科介護コースの吉村実里と申します。

この度、介護福祉の一環として『障がい者』実習を行わせて頂きました。作業所での実習が初めてでしたが疑問と課題、それらに対する回答に『近いもの』を持って活動できたと考えています。

②そもそも、福祉職を目指したきっかけは小学生時代に行った職場体験でした。

もともと福祉というキーワードに興味をもっていただけから障がい者施設に関心を持ち、体験場所として

立候補したことが福祉との出会いだったと思います。

実際に体験を行い、私が知らなかった世界を知り、また想像していなかった仕事に出会ったことで一層福祉に興味を持ちました。

③12歳の私が福祉と出会ってから約10年が経ち、今回改めて障がい者施設で実習を行い多くの学びがありました。特に「答えのない」支援からどのように「答え」を出していくかを考える職員の姿勢に感銘を受けました。

「答えがない」から分からないと言ってしまうのは、支援はその瞬間に継続性が失われてしまうと予想でき



ます。

また、分からないから考えられる多岐にわたる可能性の中に存在するひとつの答えに近い支援方法を見つめるのは、大変難しいことです。しかし、のぞみの家では分からないで終わらせない福祉職の当たり前の姿勢に支援の根本がありました。「分からない」ことを皆で共有し、話し合いを行う中で一番良いものを見つけていく。この話し合いの部分

にとっても重要なことがあります。それは、非常勤のパートを含めて多くの人から話を聞いていたこと。それぞれが利用者から受けた様子や印象が話しやすく共感しやすいまた、情報交換がしやすい環境づくりと職員間に信頼関係の形成が適切に行われているからこそ、多角面からみることで「分からない」に対する答えが発見しやすいように感じました。

また、長期に渡り支援を行っているからこそ「分かる」ことが増え過去の経験から予想できると実際の支援から見えてきました。長期に渡り関わることで「経

験」「知識」を使い「状況」「利用者」「異変」から予想されている「答え」を導き出していると考えます。しかし、決して導き出された答えが全て正しいというとはあり得ません。

ですが、これらを行うことで「答えのない」支援に「答え」に近いものを出しているのではないかと学びました。「答え」ばかりにこだわりすぎず柔軟に物事をとらえていきたいと思えます。本当に楽しい大変学びとなる実習でした。ありがとうございました。

★活動センターかなえ★

①日本社会事業大学4年の勝俣です。食べる、寝る、絵を描くことが好きで、休日はだいたい家でじっとしています。

②幼いころからおばあちゃん子で、おじいさんおばあさんの笑顔や声が好きなので、それに囲まれる介護の仕事っていいな、と思って介護福祉士を目指しました。

③今まで「障害者」と関わる機会がなく、実習はとも緊張していました。しかし、活動センターかなえのみなさんと一緒に過ごすなかで、単に「障害者」ではなく、好きなこと、得意なこと、苦手なことを持って



いる「○○さん」なのだと思っただけは体が軽くなり、同時に、レッテルを貼っていた自分に気づかされました。

④利用者さん同士でトラブルが起きた時、職員がその場を治めるのではなく、謝るか謝らないか、許すか許さないか、それぞれに話を聞き、人間関係をどう構築するか利用者本人が考えられるように間に入っていました。

そうした一見、些細な場面でも、自己決定支援の姿勢を支援者が保つことが重要だと感じました。

一方で利用者さんのある動作を、不安を増長させないために止める必要があるのですが、理由を知らずに止めていることもあったので、そういった場面では、支援の周知の難しさを学びました。

習慣になっていくことも、時折立ち返って理由や方法を確認する機会があるというなど思いました。



✿なかまの家✿

①日本社会事業大学 社会福祉学部福祉援助学科4年 介護コース所属の本村愛実です。

この度、障がい者実習の為、イリアンソスなかまの家にて6日間体験させて頂きました。

②福祉に興味を持ったのは、同居している祖父母の介護について興味を持ったからです。高齢者施設へボランティアに伺い、その先で初めて認知症の方と出会いました。

その方との出会いから、認知症や高齢者支援について学びたいと思うようになりました。

その後、大学の講義や実習、サークル活動やゼミでの学びを通じ、改めて福祉に携わり働きたいと考えました。

③なかまの家では6日間の実習の内の2日間を旅行に同行させて頂きました。旅行で一緒に過ごす、2名の利用者との信頼関係がある程度築かなければならない焦りや、本当にできるのかという不安がずっとありました。

旅行という状況に戸惑いつつも、一人一人にかかわることのできる時間の多さに魅力を感じました。

④支援員が意識して行なっている工夫も性格由来のもの

のも、人それぞれ異なり、その一人一人の性格や趣味も支援に影響を及ぼしていることがわかりました。

今回、私は職員やパートナーなど、立場の様々な方からたくさんのことを学びました。立場や経験が異なるからこそできる支援や視点があることを学びました。

最後になりましたが、お世話になりました、職員の方々、利用者の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



のぞみの家

6月初旬、チャレンジ班は、年に一度の待ちに待った一泊旅行に出掛けました。1日目は三井アウトレット入間でショッピング。それぞれ買い物と食を楽しみました。2日目は鉄道博物館へ。

マニアじゃなくても充分楽しめる鉄道ワールドを体感してきました。夜は毎年恒例カラオケ宴会で大盛り上がり!! 日常を忘れリフレッシュしたあつという間の2日間でした。



5月10日、初夏を感じさせる晴天の中、東京都の「きょうされん」加盟の作業所が一同に介する「とうきょう大会」が開催されました。

大会テーマ「それぞれの暮らし」として、個性豊かに暮らしている仲間たちの姿が、生き生きと映し出されました。

集まった500名以上の仲間の皆さんの活気と明るい笑顔に触れ、元気をもらった一日でした。

とうきょう大会

広報部会

私たち広報部会は各部署から1名ずつの計5名で構成されています。

年4回の発行に向けて、2カ月に1回集まり読者の皆様を楽しみに待っていてもらえるような広報誌を目指して話し合っています。

イリアンソスは色々なイベントや沢山の方々が携わって下さっているので、情報を掲載・紹介する大切な広報誌と思っています。

今後も皆様に笑顔をお届けられるように部員一同頑張ります!



2月から、利用者1名がカフェで働くことができました。よう、実習を始めました。支援員と一緒に掃除をするところから始めました。

その日にできたことなどを毎回振り返り、少しずつ作業の内容を覚えられました。実習は週に1回から始め、少しずつ増やしました。

実習期間を終え、5月からは週に3日働いています。毎日「楽しいです!」と、とても生き生きとした様子で働いています。



Cafe どん



このみ(放課後等デイサービス)

田中淳一 (20年目)

現在、放課後デイサービスは東京都に868ヶ所あります(生活介護事業所は505ヶ所) それぞれ、施設で大切にしていることを掲げています。勉強をする施設、様々な遊びを提供する施設など様々です。このみは放課後デイサービスが制度化される前の1982年9月に「障害がある人たちとその家族が地域でよ

り豊かに暮らすことができるように」という思いから設立されました。障害を持つ子の遊びは将来大人になって社会生活を送る上で重要な役割を果たします。「子どもらしく遊びを通して様々なことを感じることができるようになる。安心した生活がおくれるように」という思いを大切に日々、子どもたちに教えてもらいながら活動をしています。

職員のひびくやこころ

vol 2

前回、職員からのリレーです。
放課後等デイサービス「このみ」の田中さん、
生活介護事業所「なかまの家」の福田さんです。



なかまの家(生活介護)

福田恵 (10年目)

イリアンソスに入職して10年が過ぎます。のぞみの家、生活寮、このみを経験して、なかまの家で働かせてもらっています。これまでに、様々な年代の利用者さんと関わってきて思うことは、どなたも親御さんの深い愛に包まれて育ってこられたのだということです。それぞれの職場で出会った利用者さ

んの生活をみたり、親御さんとお話したりする中で、たくさんの「思い」を感じる事ができました。そんな姿を見たり思いを感じたりしてきて、私の大切にしていることは、親御さんの大切にしてくれたことを変わらずに大切にしつつ利用者さんに寄り添っていきたいと思っています。

がんばれイリアンソス!! 日本社会事業大学 介護福祉コース 壬生尚美 先生

「もう少し実習がしたい・・・。」

実習終了日に巡回指導で施設に訪問すると、学生達が口々に話していました。

本学の介護福祉コースでは、介護福祉士養成教育の一環として、4年次の5月に6日間、障がい者支援実習を行います。この実習は、障がいのある人々の暮らしについて様々な側面を理解し、利用者主体のケアのあり方を学ぶことを目的としています。

2018年度から障がい者支援施設の種別枠を広げ、イリアンソスの障がい者支援施設で実習させていただきました。2019年度には、イリアンソスのぞみ家・活動センターかなえ・なかまの家で、それぞれ実習を行いました。6日間はあつという間で、毎日が新たな発見の連続で、とても楽しかったようです。

学生たちは、これまで高齢者介護を中心に、1年次は介護基礎実習(12日間)、2年次は介護過程実習(23日間)を終了

しています。3年次には社会福祉士相談援助実習(23日間)を行っています。そのため、中には、障がいのある人と接することが初めての学生もいます。障がい者支援実習を終了して、学生たちは介護の基本である「尊厳と自立」の支援をもう一度再認識し、利用者の理解について深く考える機会になったようです。

イリアンソスの法人理念である一人ひとりの利用者が「主人公」となる支援や、自己決定が行えるようにするための支援が、日々試行錯誤を行い実践されていること。利用者の障がいの特性を理解した適切な支援や、利用者が共同生活を送るために支援者が責任を持って指導する意義など、多くのことを学んでいました。また、利用者と共に達成感を得られる活動内容やその取り組みについて、大変感銘を受けていました。

介護福祉士養成教育における介護実習は、尊厳の遵守と自立支援を基盤に、介護を必要とする人の日常生活を支援することに留まらず、社会的関係性や心理を含め

た生活全体を支える介護を学ぶことを目的としています。それは、地域を見据えた様々な場において、介護を必要とする人の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーション力や適切な生活支援を行う基礎的能力を習得することを目指しています。今回の実習は、まさに地域で生活する障がいのある人への支援を通して、個々の固有の支援の仕方や家族や地域との関係性を学ぶ貴重な体験となりました。特に、専門職としての責任感・協調性・自己管理能力・役割を理解し、障がい者支援の「やりがい」を見出す実習となったようです。

学生たちが、実習を通し成長することができましたのは、イリアンソスの職員の皆様方の障がい者支援に対する姿勢・価値・倫理や、ご多忙の中、学生たちを受け入れ支えていただけだからです。今後とも、福祉専門職をめざす後進の育成にご理解とご協力を賜り、相互に連携しながら、学生たちにご教示いただきたく宜しくお願い致します。実習巡回指導を楽しみに訪問させていただきます。

ご寄付をいただきました (6月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様 梅原雅子様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51
042-452-6405
042-452-6415 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7
042-476-3400 (F兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里 5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町 3-8-23
042-473-9667

～職員のつぶやき～

先日、地域の放課後等デイサービスの事業所が集まり事例報告会や連絡会が行われました。今起きていることやこれからのことについての話を聞けてとても勉強になりました。これからの為に頑張っていこうと思いました。

このみ 寺内慧佑

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員会》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵
中西亮太・疋田史江・斉藤加奈子
ホームページからはカラーでご覧いただけます。

イリアンソス  定価100円

表紙の写真

なかまの家 旅行の一枚。